

福知議員（民主県政会）

令和2年2月25日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）教育のICT化について

県教委として生徒が購入するパソコンの性能の差についてどう認識しているのか、またどのようなスケジュールで教育のICT化を進めようと考えているのか、さらにICT化によって教職員の労働時間短縮につなげる必要があると考えるがどう取り組んでいくのか、教育長の見解を伺う。

また、子どもたちが情報の消費者ではなく情報の生産者になるためには、どのような教育が必要であり、その教育をどのように行っていくのか、併せて伺う。

（答）

ICTを活用した授業につきましては、文部科学省が令和元年12月19日にGIGAスクール構想の実現パッケージで示されました学習者用端末の標準仕様などを踏まえたパソコンを用いて行うこととしております。

その購入に当たりましては、生徒・保護者が同程度の価格帯のパソコンを購入できるよう調整を進めているところであり、その際、学校の教育方針に応じて、学校ごとに共通の機能を持った機種を導入することとしております。

また、導入スケジュールといたしましては、高等学校35校において、令和2年度は、新1年生を対象に導入し、学年進行で段階的に進めるとともに他の高等学校につきましても、令和3年度以降、積極的な導入を行ってまいりたいと考えております。

次にICT化による教職員の労働時間短縮についてでございますが、例えば、教員が作成した教材のデータ共有、生徒の学習履歴の管理、アンケートの配信・回答集計や保護者等への連絡事項の一斉配信が容易になるなど、その使用方法によって、教員の業務の効率化につながると考えております。

次に、子供たちへの教育につきましては、様々な考え方がございますが、学習指導要領では、情報活用能力は各教科等の学びを支える基盤であり、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることと示されております。

本県では、「学びの変革」アクション・プランに基づき、生徒の主体的な学びを促す探究活動等を推進しております。

その取組の中で、ICTを効果的に活用することにより、自ら新しい価値を作り出す力や多様な他者と協働できる力など、これからの変化の激しい社

会を生き抜くことのできる資質・能力を育成することができるものと考えて  
おります。